

東京文化財ウィーク2005受賞事業

文化財ウィーク事業では、創意工夫のある事業、親子を対象とした事業、ボランティアを活用した事業など、公開事業と企画事業の中で特に注目される事業について、東京都知事賞、東京都教育委員会賞を設けて表彰しています。

平成17年度の東京都知事賞には、榎立踊保存会（八丈町）が行った「榎立の場踊（東京都無形民俗文化財）公開事業」と東久留米市教育委員会が実施した秋の「柳窪集落」特別見学会が選ばれています。

榎立の場踊は、江戸時代初期から中期にかけて流行した風流歌に合わせて、歌ごとに異なる振りで踊ります。歌を主とした静かな童心に満ちた踊りで、古朴な踊りの振りが残っています。陰曆の盆と月見（8月15日と9月13日）に集落の広場で踊られてきたものですが、歌うことのできる人もいなくなり、踊ることもなくなっていました。文化財ウィークに参加することをきっかけとして、歌と踊りが復活したもので、近年では、盆にも踊られるようになりました。

特別見学会が行われた柳窪集落は、江戸時代の新田開発によって成立し、明治時代には養蚕で栄えた村です。見学会は、民家を中心に柳窪の文化財と豊かな自然を紹介するもので、民家を公開してくださる地域の方々の協力とボランティアの支援のもとに行われ、古民家の所有者本人からの説明や維持管理に関する苦労話などを直接聞くことができました。



東京都教育委員会賞には、瑞聖寺（港区）の大雄宝殿（重要文化財）公開事業と次大夫堀公園民家園（世田谷区）の企画展「木挽きと木の文化」が受賞しています。

紫雲山瑞聖寺は、江戸で最初の黄檗宗の寺院です。大雄宝殿は、雄大な規模を持つ黄檗建築の仏殿で、江戸市中に残された数少ない本格的な仏堂建築として貴重な存在です。文化財ウィークには、第1回から参加され、特に仏堂の内部を公開し、御住職自ら見学者に説明されております。

次大夫堀公園民家園は、他の区市町村民家園の先駆けとなったもので、古民家での生活感を訪問者に感じてもらえる工夫がなされています。企画展は、機械化の波に消えつつある製材技術の「木挽き」を取り上げ、木挽き職人の文化を紹介したもので、期間中には、職人を招いての木挽きの体験会や実演が催されました。

平成17年度の受賞事業のうち、次大夫堀公園民家園の企画事業を除く3事業は、今年度も行われる予定です。また、平成16年度までに東京都知事賞に6事業、東京都教育委員会賞に12事業が表彰されています。これらの多くは、今年度の文化財ウィークに参加しており、文化財ウィークガイドには、「みるちゃん」マークが付けられています。

表彰事業以外にも、創意工夫のある素晴らしい事業が目白押しです。秋の一時、文化財に注目してみるのもいかがでしょうか。みるちゃん

